



TITLE:

あとがき

AUTHOR(S):

CITATION:

あとがき. 静脩 1971, 8(3): 6-6

ISSUE DATE:

1971-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36673>

RIGHT:



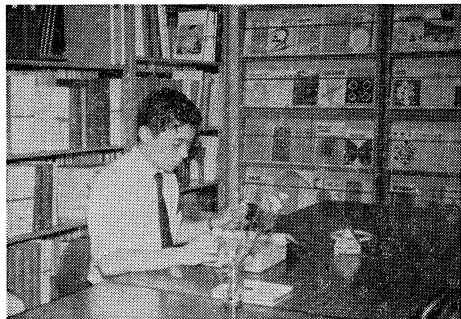
農学部 林産工学雑誌室

林産工学雑誌室は昭和42年5月に発足し、林産工学教室3階の東南隅にある。ここには各講座で必要とする雑誌を林産工学共通経費で購入しており、単行本はおいていない。購入雑誌数は和書40種類、洋書45種類で年間予算は約100万円である。

利用形態は開架式であり、利用者は書籍を自由に見ることができる。約24㎡の部屋に書架、閲覧机、職員(1名)用机等が置いてありかなり狭い。ゼロックスは1台、下の一廊隅においてある。

購入雑誌の数が和洋合わせて85種と比較的多いのは当学科の性質として物理、化学、生物、林学、機械工学等々と、幅広い分野と関係があるためである。

当学科自体、発足後間がないので雑誌の種類は多くても、バックナンバーはそろっているとはいえず、今後、完備していく方針である。また、雑誌によってはほとんど利用されていないと思われるものもあるが、これは林産工学に関する世界中の雑誌をで



あとがき：編集の不幸際で、3号が46年の最後となったことをお詫びします。

本年は国内外ともにあわただしい一年でした。図書館界も、中教審答申、社教法改正の動きなど「図書館とは何か」と問いなおすべき重要な時期となっていると感じるのは私一人でしょうか。機械化、情報化社会といわれるなかで、図書館の役割とは何か、図書館員は何をする者か。今こそ考えなおすべき時ではないでしょうか。

特集として「閲覧室の現状と問題点」を企画しました。閲覧室が図書館にとって重要な施設でありながら、京大のような古い大学では忘れがちではなかったでしょうか。みなさんとともにみつめてみたいと思います。(武内)

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 8, No. 3 (通号42号) 1971年12月25日発行・編集発行人：
岩猿敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771-8111 (内線) 2220-2238

(268)

きるだけ集めようという目的のためでもあるが、他学部、他学科の図書を利用することが比較的多いという現状も考えあわせ、現在購入中の雑誌を再検討すべき時期にきている。

工学部 高分子化学図書室

高分子化学図書室は、昭和16年4月繊維化学教室として設立され、翌17年西部構内に木造2階建の一隅を占めていたが、昭和43年工学部4号館増設に伴ない南中央2階に移転、現在に至っている。書庫・オフィス・閲覧室(教官・学生)の4室で総面積は133㎡、蔵書は約4,800冊、購入雑誌は和洋合わせて65種、図書費は約170万円、1968年より外国雑誌の新規購入により予算の70%まではそれにあてられ、その残額でシリーズ図書を購入しているため、利用者の要求される単行本の購入に限られた予算では今のところ購入が困難である故に図書費の増額を利用者は切に希望している。

利用形態は開架式であり利用者は自由に書庫に出入りできる。利用者は1日平均30名、複写設備として本年4月よりゼロックスを設置、さかんに利用されている。職員は2名である。

目録体系は教室独自の手法であるため、手軽に文献を探索できるよう目録の充実を計り、できるだけ利用者の希望に応えたいと努力している。

